

# DX推進計画

有限会社糸井火工 Itoi fireworks

2026.01



# 代表取締役からメッセージ

## DX推進の背景

有限会社糸井火工は創業 150 年を越え、歴史の中で培った技術と、若い年代の花火師たちが新しい発想で生み出す技術、この両側面を大事にしながら新たな挑戦を続けています。

弊社は、近年のデジタル技術による社会構造や競争環境の変化を、花火製造業における重要な転換期と捉えています。

全国でも約130社しかない花火製造業界では、人材不足や繁忙期の業務集中、在庫管理の煩雑さなどが課題となっています。これらの課題は、従来の手作業中心の業務プロセスでは解決が難しく、デジタル技術を活用した生産性の向上と情報共有の仕組みづくりが不可欠です。

弊社は、これらのDXの取り組みを通じて、花火産業の持続的な発展と、次世代への技術継承にも貢献していくことを目指しています。



有限会社糸井火工 代表取締役 糸井秀一

# 経営ビジョン

伝統×デジタルの融合による、次世代型花火製造業への進化



弊社は、150年培った熟練の技術とデジタル技術を高度に融合させることで、職人が「創造的な手仕事」に最大限集中できる「高付加価値型・次世代製造モデル」の確立を目指します。単なる効率化に留まらず、デジタル基盤による情報の透明化と標準化を推進することで、若手への技術継承を加速させ、多品種少量生産における圧倒的な品質と柔軟性を両立します。これにより、変化の激しい市場環境においても、持続的に花火製造業界の発展に貢献する企業体へと進化します。

# ビジネスモデル

データ一元管理による「高精度・短納期」な供給体制の構築

オールインワン型ビジネスアプリ「Lark」を活用し、在庫・入出荷データの一元管理を進め分散していたExcelデータを統合します。クラウド上でリアルタイムで連携することで、従業員全員が共通のデータ基盤を活用し、業務の効率化・見える化・意思決定の迅速化を図ることが可能となります。

これにより、データの二重入力や転記ミスを防ぎ、作業負担を軽減するとともに、現場の在庫状況を即時に把握できるようになります。また、Lark Baseを自社仕様にカスタマイズすることで、花火製造業特有の多品種少量生産にも対応可能な柔軟な管理環境を実現しています。

この一元管理モデルにより、事務・現場双方の非効率を排除し、生み出された余力を「新製品開発」や「顧客体験の向上」へ再投資することを目指します。



# DX戦略

自社開発の『Lark』在庫管理システムを2025年から運用開始

## システム統合と データ一元化

受発注・生産管理・在庫管理をLarkへ統合し、データ共通化率90%を実現。これにより情報の分断を解消し、二重入力を80%削減して業務の正確性とスピードを向上させます。

## リアルタイム管理による業務最適化

一元化されたデータを活用し、在庫の現状把握をリアルタイム化。在庫管理業務時間の20%削減を目指し、浮いた時間を高付加価値な改善活動へ充当します。

## 利活用の定着と人材育成

DX教育受講率90%目指して、Lark利用率を90%まで引き上げます。現場自らがシステムをブラッシュアップし続ける体制を整え、随時改修を行うことで投資対効果を最大化します。



# データ活用の方策①

## 1. 業務効率化と自動化による「時間・ミス」の削減

(対象KPI：在庫管理時間20%削減、二重入力80%削減)

### データ活用内容:

Larkを基盤とした「ワンス・インプット」体制を構築します。これまでExcelや紙、別システムに分散していた受発注・在庫・出荷のデータをLarkのデータベースへ統合し、連携や自動ルックアップ機能を活用します。

### 具体的なアクション:

受注データがLarkに入力された時点で、自動的に在庫引き当てと出荷指示データを作成。現場での入力作業を最小化。

**効果:** データの転記作業（二重入力）を物理的に排除し、入力ミスに伴う確認・修正時間を大幅に削減します。

## データ活用の方策②

### 2. 組織のデジタル浸透とデータガバナンスの強化

(対象KPI：Lark利用率90%、データ共通化率90%)

#### データ活用内容:

「誰が・どのデータを・どこに入れているか」の利用状況を可視化し、社内のデータ標準化を推進します。バラバラな形式で保存されていたデータをLarkのマスターデータに集約し、「このデータを見れば全員が同じ状況を把握できる」状態を作ります。

#### 具体的なアクション:

部門ごとにバラバラだったExcel帳票等を統一し、Lark上で一元管理。Larkの閲覧・更新ログを分析し、利用が進んでいない従業員へのサポートや、操作性の改善にフィードバック。

**効果:** 共通のデータが活用されることで、部門間の情報の齟齬がなくなり、意思決定の精度が向上します。

## データ活用の方策③

### 3. リテラシー向上による自律的なシステム改善

(対象KPI：DX教育受講率90%)

#### データ活用内容:

単にシステムを使うだけでなく、現場が「データをどう業務改善に活かすか」を考える文化を醸成します。社内教育を通じて、Lark内のデータを自身で抽出・分析できる人材を育成します。

#### 具体的なアクション:

Lark内のダッシュボード機能を活用し、各担当者が自分の業務進捗や在庫推移をグラフで確認できる環境を構築。

教育受講後に「自部署のどのデータをLarkへ統合すべきか」のアイデアを募り、システム改修に反映。

**効果:** 現場主導のシステム改善サイクルが回り、運用の形骸化を防ぎます。

# ITシステム環境整備

01

## データ集約基盤（Lark Base）

在庫・出荷管理を核としたデータフォーマットの共通化を行い、全社で一貫したデータ管理を実現する。

02

## デバイス・通信環境

必要に応じてモバイル端末等の整備と無線LAN環境の拡充を行う。

03

## セキュリティと運用保守

アクセス権限の適切な管理や多要素認証等のセキュリティ対策を講じる。また、マニュアルをデジタル化し、Lark上で常に最新版を共有することで、紙・Excelからデジタル主体へのスムーズな移行を担保する。

# 達成状況に係る指標(KPI)

01 在庫管理業務時間の20%削減（3年以内）

02 二重入力80%削減（3年以内）

03 Lark利用率：初年度50%→3年目90%

04 データ共通化率：初年度50%→3年目90%

05 DX教育受講率：初年度70%→3年目90%

# 組織体制

社長をトップとした「DX推進プロジェクト」を組織し、社長直轄のDX推進リーダーが実務の統括を行う。本組織は以下の3層構造で推進する。



## 意思決定層（社長・DX推進リーダー）

戦略の策定、投資判断、外部パートナーとの連携。  
社内教育の実施。

## 実行層（DX推進リーダー・メンバー）

現場の意見を集約し、システムの使い勝手やデータ運用の課題をDX推進リーダーへフィードバックするパイプ役を担う。

## 教育・支援層（社外パートナー）

専門的な知見を持つ社外のパートナーと定期的な打ち合わせやミーティングを実施し、取り組み情報を共有する。

# 実務遂行統括責任者による課題把握

01

社長直轄のDX推進リーダーが中心となり、DXシステムの運用を統括する。把握した現場課題は、即座に社長へ共有される。

02

社外のパートナーとも連携しながらデジタル技術やセキュリティに関する知見を持つ人材の育成・確保をする。

03

社内研修の定期的開催する。（DX推進の意義の共有、デジタル技術の取り扱い、ツール利用ルールの説明等）

04

現場の意見を尊重しながらシステムの使い勝手やデータ運用の課題を把握し、機能改修やマニュアルの作成などを継続し、従業員が使いやすいシステムづくりに取り組む。

# 人材育成・確保

01

## DX推進リーダー、メンバー

現場の課題をLarkの設計（Baseの構築やワークフロー設定）に落とし込む。Larkの高度な活用方法、ノーコード開発スキルや、業務プロセスの可視化手法の習得。

02

## DX一般ユーザー(従業員)

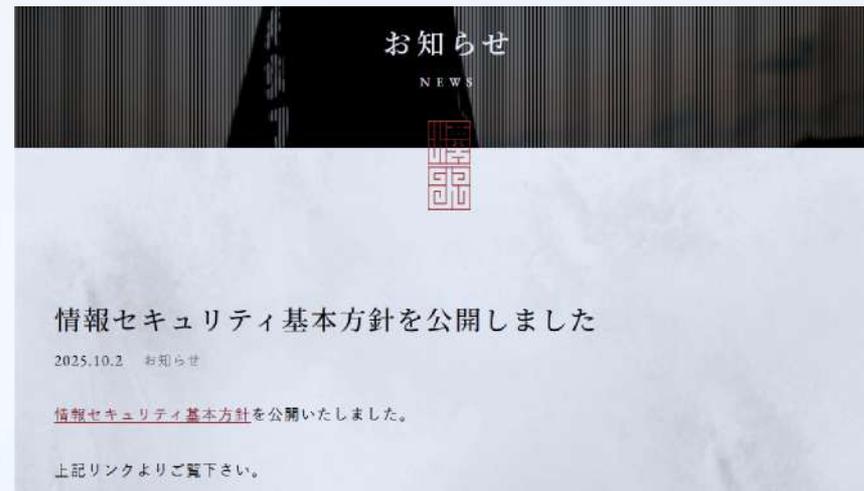
正確なデータ入力と、デジタルツールによる情報共有の徹底。定期的なLark操作の社内教育、セキュリティリテラシー教育、IT活用による業務効率化事例の共有会。

03

## 社外パートナーとの協力

社外パートナーとの定例会を実施し、設計思想やセキュリティ設定のノウハウを吸収し、将来的な自社完結型運用の基盤を作る。

# サイバーセキュリティ対策



## SECURITY ACTION制度二つ星の宣言

独立行政法人情報処理推進機構のSECURITY ACTION制度に基づき二つ星の宣言を行っています。

## 情報セキュリティ基本方針の策定

情報セキュリティ基本方針を定め、自社ホームページにて公開しています。

# DXの情報発信とモニタリング

01

## DXに関する経営者の情報発信

DX推進への取り組みについては、代表取締役のメッセージおよびDX状況を当社ホームページにおいて公表する。

02

## 社内研修の開催

従業員に対しては、DX推進リーダーより周知する。  
年1回社内DX会議でKPI評価、翌年度の改善に反映する。

03

## 社外パートナーとの協力

社外のパートナーと定期的な打ち合わせやミーティングを実施し、取り組み情報を共有する。

# DX推進の進捗

## 2024年

- 2024年6月：DX担当者が福島県庁 製造業向けDX人材育成事業「デジビズアカデミー2024」受講を開始。
- 2024年7月：DX担当者による「Lark」の導入、設計。
- 2024年11月：「Lark」のチャットを全社員で開始。
- 2024年12月：「Lark」自社向け在庫管理の自社発表会を実施。
- 2024年12月：「Lark」の在庫管理を事務部で試用開始。

## 2025年

- 2025年1月：社内からのフィードバック反映・マニュアル作成。
- 2025年2月：「Lark」アプリによる在庫管理を利用開始。
- 2025年2月：DX担当者が「成功事例に学ぶDX in福島」に登壇。
- 2025年6月：「Lark」による自社向けシフト管理を利用開始。
- 2025年9月：情報セキュリティ基本方針を作成。
- 2025年10月：SECURITY ACTIONの自己宣言(二つ星)を取得。





糸井火工

ITOI FIREWORKS